

新潟県

平成3年

公民館月報

6月
第460号

シリーズ 県外の公民館に学ぶ (2) 鷲宮町中央館(埼玉県)の活動



風のメッセージ

父は風を読む

(いい西風だ)

(風を握め)

六月の空は光っている

風は風に乗って

青空に染まった

さりげなく 父から

息子へと送り継がれる

風のメッセージ

羽賀 悦子

(新潟市中央公民館)

「地平の会」

子ども大凧合戦

伝統の白根大凧合戦の前日

開催された「子ども大凧合

戦」。一七回を迎え、年々盛

んな公民館主催事業であ

る。

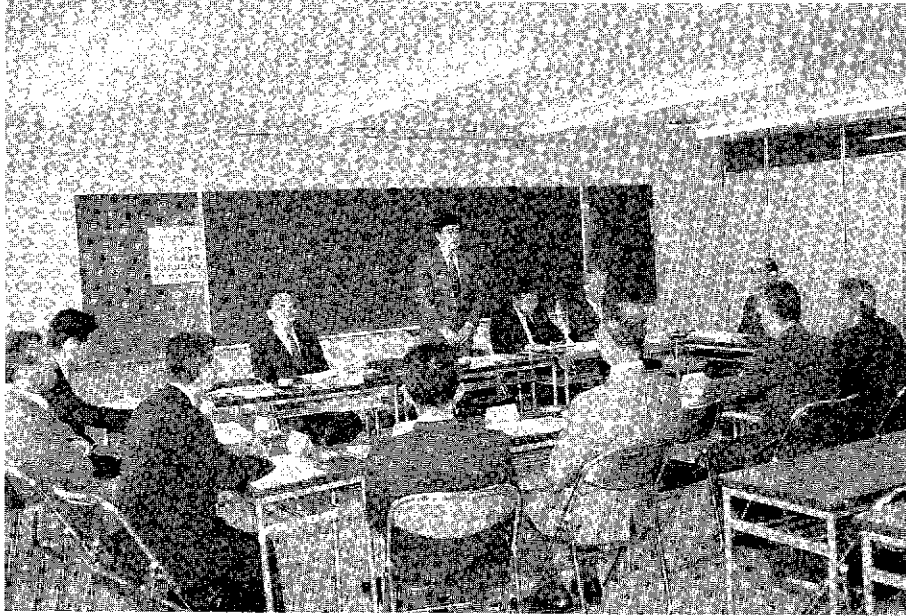
(写真提供)

白根市中央公民館

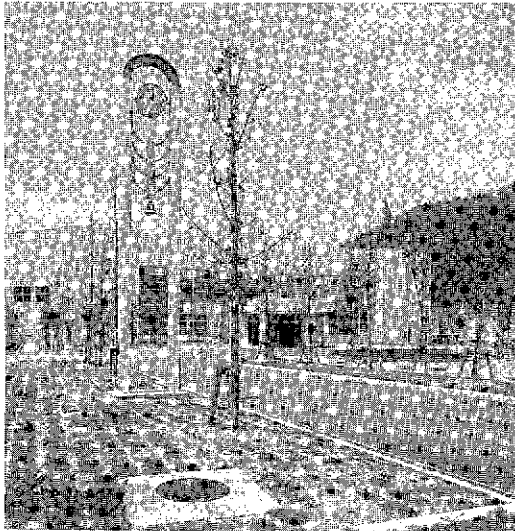
関ブロ公研集会

実行委員会始動!!

事務局体制を充実して出発



上、課長激励のあいさつ
左、湯沢カルチャーセンター正面



去る五月三十日(休)、第32回関

東甲信越静公民館研究会の第一回実行委員会が新潟市中央公民館を会場に開催された。

実行委員長には本会会長が就任。副委員長には本会副会長の三氏とともに、県生涯学習推進課長清水明氏を推戴し、県教育委員会の指導のもとに一体的な実行委員会が組織され、研究会への第一歩を踏み出した。開会のあいさつにおいて、木

下委員長に続いて、清水副委員長(課長)から「市町村における生涯学習推進の中心的施設としての公民館の役割は極めて大きい。その意味から、この研究会は意義あるものであり、成功のために、県としてもできる限りの応援をします。」と力強い励ましのあいさつがあり、協議が進められた。そのあらましは次のとおりである。

一、実行委員会の組織と役割
実行委員会の役員ならびに係員の確認とそれぞれの役割についての検討がなされた。それによると、委員の役割の主体は集会当口の仕事に絞られ、そのための企画、構想は事務局で作成することになった。このため、事務局のスタッフを充実して取り組むことにした。(事務局スタッフは下表のとおり)

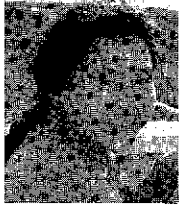
二、当日までのスケジュール
多くの部分は事務局の仕事になるので、ここでは割愛する。

第2回実行委員会を七月十二日(金)に、会場を現地湯沢カルチャーセンターとし、役員・係員の全員参加によって開催することになった。この第2回実行委員会が実質的

な「旗あげ式」になること、また、係員の役割の詳細が明らかになることから、係員諸氏を派遣する関係公民館では、万障を差練って派遣してほしいと事務局では望んでいる。
なお、第3回実行委員会は、本番の前日とし、諸準備に関係ある部係の役員・係員のみによることとなる模様である。

事務局	上 村 捨二郎 (新潟県公民館連合会事務局長)		
事務局長	樋 橋 川 野 関 部 阿 佐 久 佐	洗 実 昇 昭 重 義 弘 良 子	(新潟市関屋地区公民館係長) (新潟市中央公民館主査) (新潟市坂井輪地区公民館主査) (新潟市中央公民館社会教育指導員) (長岡市中央公民館庶務係長) (新潟市市民館係長) (湯沢町公民館副参事) (新潟県公民館連合会事務局職員)
係 員	武 高 小 高 大 阿 佐 久 佐	樋 橋 川 野 関 部 阿 佐 久 佐	
同 同 同 同 同 同 同			





社会を作り上げた。結果、要塞のような排他的な同質

辛口

かつて私達日本人は同質であることを力とし自分達を守ってきた。教育は同質化させることであり、異質な者は主従の関係が成立しない限りそれを排除してきた。結果、要塞のような排他的な同質社会を作り上げた。

生涯教育の

必要性と理解度

佐々木 玲子

同質社会に守られて育った者は自己の考えが持てず他者に対し明確な説明ができない。また、多様化の中で健全な愛情と人間関係が保てない。今私達が学

べきことは、異質なものとの共存であり、そのための自己認識と表現力である。学習に際しても私達は問題をかかえてい

る。このチラシが、いろいろな研修材料を提供してくれ

先ず、化学工業の工場とスポーツ・カルチャー講座の組み合わせである。あらゆる企業が生涯学習振興の時流に乗って、教育産業に新規参入の可能性を持つことと参入形態を教えられる。開講時間は、午後六時以降である。企業が従業員向けの厚生事業を地域に開放する計画と見、生涯学習社会構築にむけて、企業と行政の連携のあり方について示唆を得ることができる。

第32回関東甲信越静公民館研究集会 第42回新潟県公民館大会 実行委員会名簿

委員長	木下清一	新潟県公民館連合会会長 (新潟市中央公民館長)
副委員長	清水明	新潟県教育庁生涯学習推進課長
同	田畑耕一	新潟県公民館連合会副会長 (上越市立公民館長)
同	星野正平	新潟県公民館連合会副会長 (長岡市中央公民館長)
同	遠藤謙二	新潟県公民館連合会副会長 (新潟市公民館長)
同	片桐深春	湯沢町公民館長
委員	寺崎直二	新潟県公民館連合会理事 (糸魚川市中央公民館長)
同	大野昭二	新潟県公民館連合会理事 (新井市公民館長)
同	太田正義	新潟県公民館連合会理事 (十日町市公民館長)
同	中西昭雄	新潟県公民館連合会理事 (高柳町公民館長)
同	熊谷工助	新潟県公民館連合会理事 (燕市中央公民館長)
同	滝波善和	新潟県公民館連合会理事 (村上市中央公民館長)
同	井部和夫	新潟県公民館連合会理事 (白根市中央公民館長)
同	森山新尚	南魚沼郡公民館連協協会長 (大和町公民館長)
同	鈴木高彦	新潟県教育庁生涯学習推進課副参事
同	関吉彦	新潟県教育庁生涯学習推進課副参事
同	濱田正信	中越教育事務所社会教育課副参事

他山のチラシ

松田 鐵夫



ある日の新聞に、となり町の公民館で開講される「ス

次に、一人一回七百円というレッスン料は、教育委員会が会場を提供し、後援しているという条件のもとで、設定されている。これを、教育委員会が主催し、企業が後援したらどうなるのか。定員は約三十名とある。A新聞社系カルチャーセンターは、一回二時間の講義で講師に二万円の謝金を払うためには、最低二十五人の聴講生を集める必要があるという。会場費等を抜きにして、この場合一人当たり八百円になる。

ひろば

十二のチャレンジ百のターゲットを掲げて、「生き生き新潟教育プラン」がスタートした。プランでは、生涯学習推進体制の整備にチャレンジするために「行政と民間教育事業者と連携推進」をターゲットの一つに設定している。行政と民間が連携推進する場合、主体性をどちらがとるか。庇を貸して母屋を取られるのとえもあるが。

(糸魚川市中央公民館 運営審議委員)

県ぐるみ 大きな輪になれ 交通安全(新潟県交通安全スローガン)

執筆者紹介 村松町公民館長

宮嶋昌世氏



昭和六十二年四月、村松町公民館の非常勤公民館長に就任。以来積極的に公民館経営と取り組んでいる人。とくに、昭和六十三年の公民館竣工十周年を記念した「公民館祭は、文化祭芸能祭等のイベントとは趣を異にする極めてユニークな事業を創り出した。そのことから、住民から極めて高い評価を得ている。

公民館に学ぶ (2) (埼玉県)の活動

宮嶋昌世

はじめに

四年前の昭和六十二年に三市 中蒲公民館連絡協議会で県外視察を実施した折に訪問した。公民館である。私自身が公民館長に就任当初のせいもあるが、町をあげての取り組みと新鮮な息吹きにいたく感動させられたことを今想い出す。

その時点で、既に生涯教育を推進する視座に立って熱っぽく語られたことから、現在どのように進展変化したか、また訪問してみたい気持ちがある。

一 特異な立地条件

昭和二十九年鷺宮町と桜田村が合併。昭和四十六年公団鷺宮団地の入居、五十七年東北本線東鷺宮駅開業に伴う周辺の開発。ニュータウンの入居と工業団地の操業開始、住宅団地の建設等で都市化の波が押し寄せ、国鉄の路線を挟んで新と旧が別の町のような姿を現わし、併せて近所のふれあいも連帯感も薄く地域の教育力も低下して町づくりが大きな課題となった。十五年程で人口は約三倍にふくれ、二万七千人、将来は四万人程度の田園都市を目指すという。

二 公民館の経過

中央公民館は昭和五十四年開

館。当初は前期後期合わせて十七の学級・講座を実施、延一万八千人の利用者を数えた。

その後、新旧住民が一体となった心の通う住みよい町づくりを目指し、また、学級・講座生や育成サークル・既存の利用団体の人を結ぶべく「コミュニティの集い」を実施。コミュニティづくり関係事業を最優先として行政の柱にすえた。

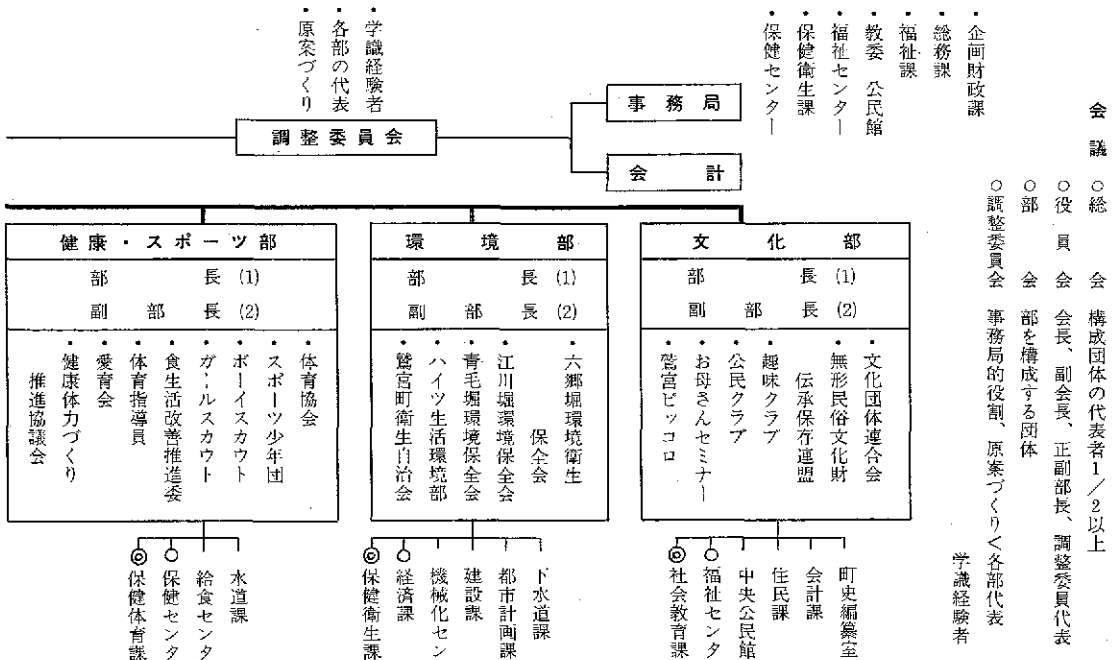
価値観の多様化個別化が進む行、共同による地域づくり活動や町民の相互扶助活動に不十分な傾向が生じ、町民参加による地域づくりのための課題解決能力が減退している状況から、町民の生活意識や態度の変革を求めため「公民館のあり方」について昭和五十八年公民館運営審議会に諮問が出され、二ケ年に亘る検討の結果、昭和六十年に答申が出された。

三 町の社会教育的事業

社会教育関係課以外が実施する社会教育的事業は次の通り。

- 福祉課
- 福祉運動会、手話教室
- 福祉センター
- 趣味講座 25
- 児童館
- 児童教室 子供工作教室等
- 保健センター
- 健康体操教室 料理講習会等

鷺宮町コミュニティづくり推進協議会組織図



百館百様

音楽あふれる町を目指して

「コミュニティホール」「さわらび」の活動記録

はじめに

「さわらび」……早蕨のことでこの地方では春先の出たてのわらびのことをいいます。この「さわらび」が建築されたのが昭和六十年九月でした。

施設自体はさほどめずらしくもないのですが、その建築の経過とその後の運営に特色的なものがあります。以下その取り組みの過程と現在の活動状況について紹介します。

さわらびの建築の経過

大和町は県南部上越国境に近接する南魚沼郡の最北端に位置し、霊峰八海山と清流魚野川に

象徴される豊かな自然と国際大衆、新幹線浦佐駅に見られる近代施設群との調和のとれた町です。そんな何不自由ない環境のなかでも「果して町の将来はこのままでよいのか」との漠然とした疑問から「地域づくりのための住民参加の課題」を模索していた時期でもありました。

「より多くの町民が係わろう」との呼び掛けで「うるおいのある町づくり委員会」が開かれ、ホールの建築について話し合われたのはそのような経過からでした。この委員会は町民の誰もが自由に参加し、自由に意見を述べる場として五十九年から六十年にかけて約二十回の会議等

を開催し建築の過程から行政まかせではなしに町民自らが真に自分たちの施設として考え、しかも机上の議論ばかりではなく実際の行動もともなった活動の展開が進められました。内容は「どん帳のデザイン検討のための『どん帳展覧会』の開催」「ホールの愛称の募集」「施設・備品の検討」さらには建築後の施設の運営(申込方法、使用料等)について検討を重ねました。従来、行政の担当がほぼ一人で起案し決裁を経て執行してきたこれらの事業事務について、より多くの町民といっしょに考えることよって発想の視野を

さわらびの運営

さわらびの運営については公民館の通常の活動と連携させ、

「音楽教室の開催、サークルの育成」から「ステージ発表の機会提供」さらにはより「質の高い音楽の鑑賞の機会の提出」等を主軸に運営しており、特に「さわらび早春コンサート」は自主事業の目玉として毎年三月、外国の一流演者を招へいしクラ

シックコンサートとして開催しております。もう一つ運営における特色は、「さわらび操作師会」の設置です。いわゆるホールの音響、照明等の器械操作についても出来るだけ多くの町民から技術的な面を学習してもらおうため、年二回の講習の機会を設け技術認定証の発行を受けた町民が自主的



建築に関する予算、契約及び条例規則制定等については、庁内にプロジェクトチームを編成し町づくり委員会と併行して調整と連携を進めてきました。かくして総額約三億三千万円のホール「さわらび」が誕生しました。

このように個定席三九二という小さなホール建築で得たものは、従来の行政の姿勢としての「施設が出来ましたので利用して下さい」から「私たちが町民の建物なんだ、大切に積極的に使おう」という町民の意識変革でした。このことは沢山の町民が係わった町づくり委員会の目に見えない成果と言えるかと思えます。



な組織としての操作師会を編成し、ホールに係わっています。このように建築から運営まで町民が主体的に取り組んできた

コミュニティホール「さわらび」は音楽のあふれる町づくりへの核として、より多くの町民が学びあう場として今後も「存在感のある施設」をめざしております。

(大和町社会教育係長

井口 光雄 記)

百館百様

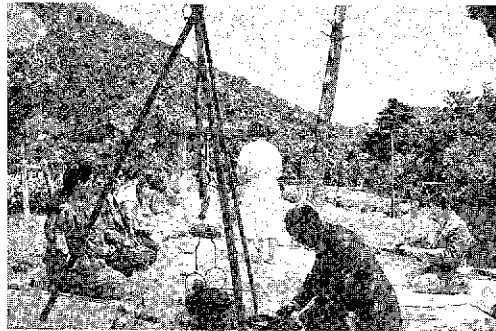
井口 光雄 記)

サークル交流

生涯学習として

巻町「三和会」

三和会は、茶道石州流を愛する者の集まり。会員相互の親睦と豊かな人間性を養う事を目的とした会で、昭和五十八年に発足いたしました。巻町の社会教育関係団体に認定され、公民館の和室で月二回練習しています。会員は、現在二十七名(男性四名)で、講師としてお二人の先生をお願いし、お点前作法を通じ、心の修養に努め、日常生活に必要な所作を見につけるべく練習に励んでいます。月二



回の稽古の他に季節による萩、新緑、七夕、紅葉茶会など、又野立茶会をしたり、会場を移したりして、その時その時の情緒を楽しんでいます。近郷での茶会や美術品の展示会にも出かけ、教養を高めると共に、諸道具の鑑賞など総合芸術を生涯の学習にと心がけています。又茶道に必要な道具も、手作り出来る物は全員で協力して作るようにし、時には講習会を開いたりしています。茶会の準備設営も当番制で全員が交代です。ようにし、この事によってお茶の精神を養うようにとめています。

知ることの喜びを支えに
心豊かな人生を

(平川 茂 記)

上越市自主グループ「椿学級」

現在、高田・直江津両地区館でそれぞれ五十名規模の公民館高齢者講座が開設されていますが、年々希望者が増えて、公民館では定員に絞ることに苦労されているようです。

そんな状況もあって、昭和六十二年度から、両地区館にそれぞれ高齢者講座の自主学級がつ



くられたうちの直江津地区館に作った自主学級が私達の「椿学級」です。

「人生の幸福を開くのは自分自身の希望と知恵であり、そして美しく老いたい」という思いを抱いて、自主学級の運営の世話役として五年も過ぎましたが、甲斐あって学級生も七十名の多きに達しました。

月4回、年二六回、上越教育大学の教授・若い保健婦・お寺の和尚さんまでという多彩な講師によって郷土史・健康管理・軽運動・現地学習及び他の学習クラブとの交歓学習等楽しく学習が続けられるよう工夫して頑張っています。

(直江津地区館自主グループ 椿学級長 吉田 勇記)

糸魚川市浦本公民館主事

寺崎真澄氏 (64歳)



公民館活動をマナーズメントする

どんな会議にも御意見番という方がいます。シーンとした会議でもその人の開口一番、即座にふん困気が活発になる。そんなキャラクターを持った個性豊かな主事さんです。浦本はその名の如く糸魚川屈指の漁村。大きな波の音にも負けないような

のは至難の業。豊かな社会経験と公民館運営審議委員の経歴がこの人を地域の「顔」にならしめ、その旺盛な好奇心が公民館活動の活性化と御自身の若さの秘訣になっているようです。

糸魚川市には地区公民館が十館あります。その主事さんたちが構成する公民館主事会の会長でもある寺崎さんは、担当地区は市の東端に位置しています。主事さんの声は中心部にピンピンと聞こえて来ます。寺崎さんこれからお元気で。

(糸魚川市中央公民館 小野 孝 記)

素顔拝見

新潟市石山地区公民館

主査 佐々木殿氏 (39歳)

「公民館は何年ぶり?」
「十二年、十四年かな?」

「以前との違いは感じる?」
「年とったから。中堅職員だからね。意識の違いかな。」

「カムバックした今、したい事業は?」

「特に無い! 目新しい言葉に出あって。生涯学習とか、時代背景が変わっているし、事業のメニューが出そろってしまっているから。自分の担当しているのを真面目にやっていくよ。でも、



トレンディでいたい。趣味は? 「ゴルフは特に力を入れている。それと溪流釣り。」

「うーん。「前進」と「和」」

「お子さんはいいます?」

「2人、小2と年長組。庭でファミリーキャンプをして、焼そばを作ったりして楽しんでるよ」

「最後に自己PRを。」

「働き盛り! 私の仕事を見てください。」(新潟市坂井輪地区公民館 小川 昇 記)

会場増設で

「ウーマンカレッジ」募集開始

主催 新潟県教育委員会

申込期間

6月17日～7月6日まで

申込方法



県教育委員会では、次の要領で「ウーマンカレッジ」を開催する。この事業は今年で三年目を迎える婦人の生涯学習推進事業であるが、これまでは新潟市

会場(県立新潟女子短期大学)のみで実施してきたもの。今日の時代的要請を受けて、今年

長岡市会場(長岡短期大学)を増設したものである。振っての参加を望んでいる。

主催 新潟県教育委員会

会場 県立新潟女子短期大学

長岡短期大学

県立新潟女子短期大学

1、期間 7月13日～11月30日

2、対象者 女性学に興味ある男女100名

3、テーマ 新しいパートナーシップを求めて

4、時間回数 1日3時間 10回

長岡短期大学

1、期間 7月27日～11月30日

2、対象者 女性学に興味ある男女100名

3、テーマ ゆれ動く社会と女性

4、回数時間 1日3時間 10回

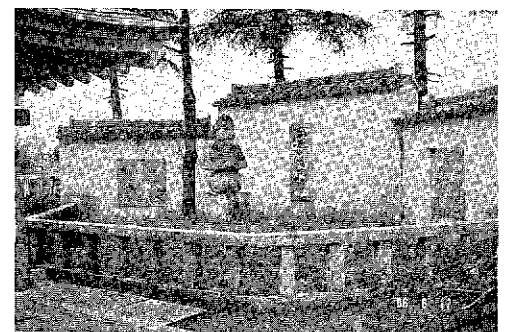
まちからあろから

市町村の隠れた名所紹介のコーナーです。

【板倉町の巻】

板倉町は今「あしんの里」づくりが進められています。

往復はがきで県教育庁生涯学習推進課成人教育係まで(〒950新潟市新光町四一) ※要項は各市町村教育委員会にありませう。



親鸞の妻として多くの子どもを育て、その思想形成を陰で支えた恵信尼は、郷土の生んだ偉人として高く評価されています。それはまた今の時代にまで伝わる「暖かい優しさ」と「し

んの強さ」を備えた越後の女性。典型的な姿でありませう。

新潟県につたわる 子どもの遊び

編者 新潟県小学校体育連盟

光文書院 発行

図書紹介



県小学校体育連盟から、このほど「新潟県につたわる子どもの遊び」という図書が刊行され反響を呼んでいる。ネーミングのとおり新潟県に伝わる数多くの子どもの遊びを、小学生にもよく分かるようにイラストによって紹介したものである。今の子どものことはむろんのこと、昭和初期の子どものたちのノスタルジヤを感じさせる遊びの集大成で、各ジャンルごとに百五十種余が載せられている。

発行所 新潟県公民館連合会
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(025)224-6073】
発行人 会長 木下清一
編集人 事務局長 上村捨二郎
【定価1部120円 年共1,440円】

◆関プロ公研集会の参加申込みの締切りが近づいてきました。事務局の仕事は、文書事務から窓口事務に移ってきた感じがします。
◆事務局体制を充実して万全を期するつもりではおりますが、肝心の参加申込みが遅くなっています。市・郡単位に一括して期限内早目の申込みにご協力ください。(上村記)

あとがき

武藤真一記

その恵信尼封塔が県道三和新井線のほとり大字米増地内にあります。親鸞の銅像とならんでいる封塔をご覧下さい。(ルート) 恵信尼封塔——山寺 兼師——光ヶ原高原へ (板倉町公民館長)